

# step up

2025 校内研修通信

秋分が過ぎ、朝晩に感じる風が少しずつ秋へと移行してきました。今年度、「言語能力をはぐくむモデル校」としてスタートし、半年が過ぎました。国語の学習では、2学期は、各学年で系統的に、物語文や説明文の教材が設定されています。国語科は、言語能力を育むための要となる教科なので、昨年度学んだことを生かしながら、授業作りを実践していければと思います。

6年生「やまなし」の実践から、国語の授業作りのポイントを紹介したいと思います。

## 単元名

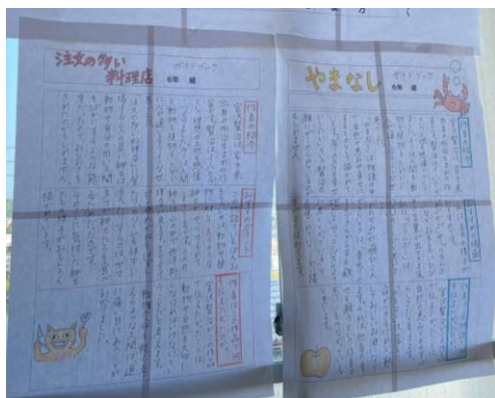
「宮沢賢治の作品を読み、『ガイドブック』で物語の魅力を伝えよう～宮沢賢治の世界へ旅しよう～」

## 教材名

「やまなし」(光村図書6年)

### ①具体的な学習課題(単元のゴール)を設定する。

学習指導要領の指導事項より「つきたい力」を明確にし、魅力のある学習課題(単元のゴール)を設定します。児童が単元のゴールをイメージしやすいように工夫します。



## 単元のゴール

『ガイドブック』で物語の魅力を伝えよう  
登場人物の人物像や物語の全体像と関連付けて書く。(思・判・表Cエ)

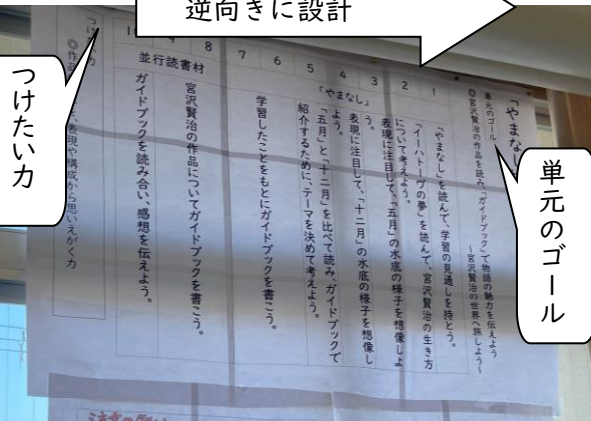
- ① 作者の紹介
- ② おすすめポイント
- ③ 作者が伝えなかったこと

### ②単元を貫く言語活動

単元のゴールに向かって学習を展開していけるように計画し、単元のゴールと結びつく、必然性のある本時の学びを構想します。

単元計画は、教室に掲示し、いつでも子どもたちが確認することができるようにすることで、「今日、どんな学習をするのか」を意識することができるようにします。学習の見通しを持たせることで、児童が主体的に学ぶ姿勢を引き出します。

## 逆向きに設計



### 〈先行読書・並行読書〉

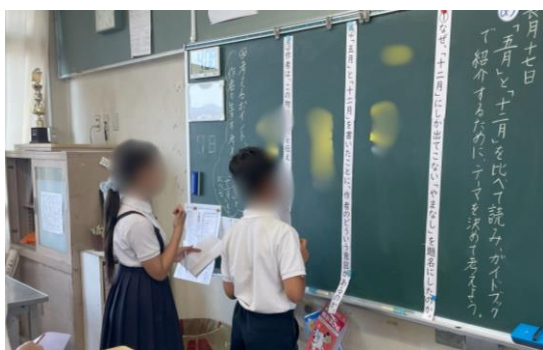
教科書教材と関連する本を先行して読書します。並行読書マトリックスを活用することで、子どもたちの読書の状況を一目で把握することができます。また、友だちの読書の状況が一目でわかることで、読書を推進することができます。

今回の実践では、「やまなし学習ノート」を作り、読んだ作品と、一言感想を書くことに取り組みました。



### 〈目的のある話し合い活動〉

「何のために話し合いをするのか。」「その目的のためには、誰と話すのか。」を大切にします。



「ガイドブック」で紹介するために、テーマを選んで話し合いました。同じテーマを選んだ友だちとペア交流を繰り返します。



共感、質問、助言等で、話し合いが深まるようにしていきたいです。

交流のあと、自席に戻り、自分の考えをまとめます。交流の前と後で、自分の考えが広がったことを意識させます。

教科書教材で学習した後、並行読書材で学習を繰り返しました。今回は、同じ作者の作品を読んで、「ガイドブック」を作成しました。

